







4)で移動/固定通信とICTソリューションを提供するソフトバンク(9434)が19日、東証一部に上場した。公開価格1500円を2.5%下回る1463円で初値が生まれたが、その後1344円まで売られ、前場は1360円で引けていた。

過去最大の資金調達額が懸念されていたが、上場前に発生した通信障害や全般相場の地合い悪が重石で、寄り前の気が

## 終始軟調な展開

NTT(9432)を上回る

## マーケットの話題

ソフトバンクグループ(998)配値を見て売り急ぐ個人投資家が急増したと見られる。配当性向の高さから海外投資家の関心が高いとの指摘も一部であったものの、5Gへ向けた設備投資が嵩むなかで、内部留保を高めるべきとの指摘もあった。前場は1300円台で落ち着いた動きだったが、1500円に接近する過程では公募で購入した投資家

から売り値を押し下げられた。さらには、後場に入ってから処分売りが断続的に出たよう、1300円の攻防となり、この日の安値1282円で取引を終えている。終始軟調な展開で投資家に失望感を抱かせる結果になった。

上場初日のソフトバンク

修正した。不動産投資開発事業における

## ビーロット大幅続伸 不動産売却増で上方修正

18日、ビーロット(3452)が大幅続伸。17日の取引終了後、12月の業績予想の修正を発表。売上高を200億円から202億2200万円(前期比54.4%増)へ、営業利益を25億1200万円から32億8100万円(同38.7%増)へ、純利益を14億1400万円から19億3500万円(同54.8%増)へ上方

ビーロットの日足チャート



## ソースネクスト急騰

### 「ポケトーク」ニュースで紹介

19日、ソースネクスト(4344)が急騰。18日夜のTBSTALK(ポケトーク)Wが紹介されたことが刺激となったようだ。番組では長文でも瞬時に翻訳されることが実演されて

### コムチュア増額も希薄化

19日、コムチュア(3844)は続急落。19年3月期の連結業績予想について、営業利益を22億円から25億4500万円(前期比

修正した。不動産投資開発事業における

が積み重なったことが相次ぎ、高利益率が寄与している。

## シノケンG下方修正

20日、シノケングループ(8909)が大幅反落、年初来安値を更新した。18年12月期の連結業績予想について、売上高を1200億円から1120億円(前期比5.7%増)、営業利益を135億円から116億円(同10.2%減)へ下方修正した。不動産投資家に対する金融機関の融資姿

29.3%増)へ上方修正したが、併せて第三者割当による130万株の行使価額修正条項付新株予約権を発行すると発表したこと、希薄化と需給圧迫を警戒した売りに値を崩した。新株発行による潜在株式は発行株式数の8.06%に当たり、調達資金約4

### 公開価格2.5%下回る

ソフトバンクの初値  
19日、ソフトバンク(9434)が東証一部に新規上場、公開価格1500円を2.5%下回る1463円で初値が生まれ、その後の軟調に推移した。(詳細は左上段囲み「市場の話題」を参照)

### 公開価格の3.8倍

Kudanの初値  
20日、前日に東証マザーズに新規上場したKudan(4425)は公開価格3720円の3.8倍となる1万4000円で初値が生まれた。人工知覚技術の研究開発及びソフトウェアライセンスの提供を行う。

# 武田薬品は逆行高

## NY上場発表きっかけに

20日、武田薬品工業(4502)が逆行高。19日朝に24日付でニューヨーク証券取引所に上場すると発表したことをきっかけに下げた。東京とNYの世界で最も大きい2つの資本市場に上場する唯一の医薬品企業となり、シャイア



公開価格33%上回る

### Amazonの初値

20日、Amazon(4424)が東証マザーズに新規上場、公開価格1320円を33・0%上回る1756円で初値が生まれた。フ

公開価格6%上回る

### AmidAの初値

20日、AmidAホールディングス(7671)が東証マザーズに新規上場、公開価格1460円を6・3%上回る1552円で初値をつけた。印鑑やスタンプなどを通販サイトで販売する。

## 大塚家は提携報道

週末21日、大塚家具(8186)がストップ高。日本経済新聞で「中国家具販売大手の居然之家(北京市)と業務提携する方針を固めた」と報じたことが材料視

アイエスビは希薄化

21日、アイエスビー(9702)がストップ安。大和証券を割当先に行使価額修正条項付新株予約権を発行すること

公開価格25%上回る

### テノHDの初値

21日、テノホールディングス(7037)が東証マザーズへ新規上場、公開価格1920円を25%上回る2400円で初値をつけた。

公開価格2%上回る

### EduLabの初値

21日、EduLab(4427)がこの日、東証マザーズへ新規上場、公開価格3200円を2・2%上回る3270円

公開価格17%下回る

### 自律制御の初値

21日、自律制御システム研究所(6232)が東証マザーズへ新規上場、公開価格3400円を16・8%下回る2830円で初値が生

## 今週の動意銘柄

## 転ばぬ先のテクニカル

### 天与の買い場接近

先週の東京株式市場は週初こそ反発しましたが、その後4連敗で2万円攻防となりました。3月安値を割り込んだことで投げ売りが殺到。年内税金対策の売りに加え追証に伴う投げ売りもあり、取引時間中も戻すことなく、時間の経過とともに深堀りするという投げのスパイラル現象が起きました。

新安値銘柄が2008年10月のリーマンショック時を上回るという奇異な現象に加え、日経平均のPERが11・5倍割れとこの数年なかった水準に急低下。PBRは1・05倍と解散価値に接近しましたが、今年に年末相場期待薄としてきましたが、ここまで酷い下落になると逆にチャンス到来ともなります。

年内の立会いも残すところ4日間。当初は株を枕に年越しなど考えもしませんでしたが、このセリングクライマックス的現象ならば今週は買い下がり年越しすべきと考えます。 日々勇太朗



10・77%の希薄化が生じる。

ウスターサービス・ハブの試験開発、実施、分析、教育サービスを提供する。

の試験開発とテストの実践を通じて、英語などの能力検査

無人化・IoT化に係るソリューション

## 潮流

## 経済危機は起こらない

## 本源的価値から株価は安すぎる!

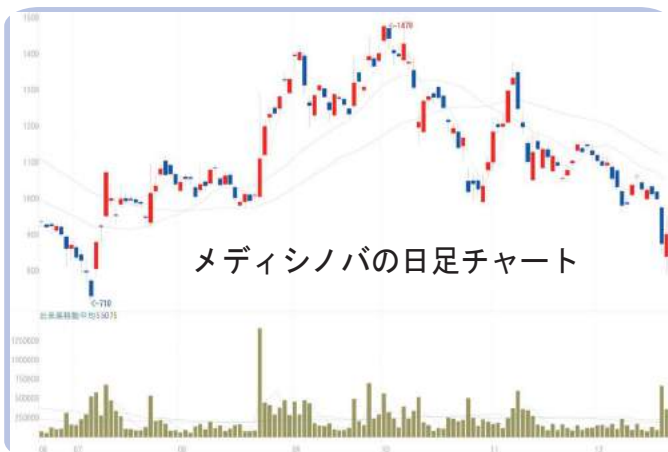
marKet / bAnk

20日の日経平均は前日比595円(2.8%)安の2万0392円で終え、9カ月ぶりに

年初来安値を更新した。

2万1000円割れに続き、3月安値(2万0617円)を割れても下げ止まらない株価に個人投資家が恐怖心と追証が発生する危機感から持ち株を投げ売った。このような投資家行動を誘ったのがヘッジファンドとCTAといった外国人投機筋だ。投機筋の売り仕掛けはオプション市場の動揺を招いた。日経平均が心理的節目の2万円に接近したことで、権利行知価格2万円や1万9000円のプット(売る権利)の価格が急騰。年内の安値更新や2万円割れはないとみてプットを売っていた投資家が損失埋め合わせのため株価指数先物に売りを出した。新興市場でも個人投資家の投げ売りでマザーズ指数が5.4%急落した。まさにセイリングクライマックスだ。

12月第2週(10日~14日)の投資部門別売買状況で外人投資家が現物と先物の合計で6004億円の売り越しとなった。この内4391億円が先物の売りだ。年初から12月第2週まで外人投資家は現物と先物の累計で約12兆5000億円を売り越した。このままだと、年間で



メディシノバの日足チャート

実質過去最大の売り越しになる。売越額は現物株だけで約5兆3605億円と1987年(7兆1927億円の売り越し)以来、31年ぶりの高水準になる見込みだ。

日本株が急落した要因は全てヘッジファン

ドとCTAの投機的な売り仕掛けだ。しかし、今の株安から経済危機に繋がることは考えられない。なぜなら過去の経済危機に共通している要因が皆無だからである。今回の急落は2015年から繰り返されている米国長期金利の上昇による影響から発生するアセットアロケーションの修正により、それまでの過剰流動性相場での均衡が崩れたことだ。単に需給相場が買い手不在の中で発生しているだけだ。そこにヘッジファンドやCTAが株価指数先物を使って、独自のアルゴで自動売買を繰り返し、市場を乱高下させているに過ぎない。HFT(超高速・高頻度)プログラム自動売買を廃止しない限りこのような荒っぽい動きが今後も続く。企業のキャッシュ創造力から割り出した本源的価値に対して、現状の株価は安すぎる。投資チャンスが来ている。

潮流銘柄はメディシノバ(4875)、アルテリア・ネットワークス(4423)、ビジョン(9416)。



岡山憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

要因は投機的売り仕掛け



今週の

# 活躍期待銘柄



## オートボックス (9832)

### ドラレコ好調で16%営業増益

オートボックスセブン(9832)の株価は全般地合い悪のなか、12月5日に1689円の年初来安値を更新。その後は打たれ強くなり1800円を超えまで上昇するなど戻りを試す動きになっている。貸借倍率は0・27倍で拮抗しており、シーズンストックとしての内需株としても注目できよう。

19年3月期は台風災害等の影響などもあり、第2四半期累計(4〜6月)の連結営業利益で15億800万円(前年同期比32・3%増)となっているが、品揃えと販売体制を強化したことでドライブレコーダーは好調に推移。今後はスタッドレスタイヤなどの雪対策関連製品の需要が本格化することから通期予想の90億円(前期比15・5%増)を変えていない。バッテリーも6月からの値上げで利益率は向上している。(と)

**雪対策関連需要も本格化**



## KeyHolder (4712)

### 業容変貌いよいよ「現実」に

KeyHolder(4712)は11月14日に戻り高値151円を付けたあと、130円絡みで約1カ月の保ち合いを経て動きづいてきた。新規事業の総合エンターテインメントはライブ・エンターテインメント部門とテレビ番組制作部門を立ち上げ、運営会社2社を設立。特別顧問に著名プロデューサー秋元康氏を招聘して、新宿アルタ店でライブ・イベントスペース運営、テレビ番組制作も開始しており、第3四半期から本格的な収益貢を見込む。さらに、オンラインゲーム企画・開発のケイブ(3760)と資本業務提携、第三者割り当てによる普通株式76万株を引き受け、ネットクレーンゲーム事業にも進出しており、いよいよ業容変貌が現実のものになってきた。

高値期日明けの25日からの本格反騰に期待が高まる。(さ)

**期日明けから本格反騰へ**

# 大納会に向け戻す展開

## 高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

波乱の12月となりました。20日の東京市場は米国株の今年の新安値をみて日経平均が下げたのですが、日経平均も新安値まで突き落

された。米国安だけの日経平均は50円以上も下がる結果にはなっていない。下げさせた原因はソフトバンクの連日の大混乱によるものでした。ソフトバンクは前日の売りだし値1500円から200円安超えて売られてその影響が全体に広がり、世界株も日経平均だけでも下落

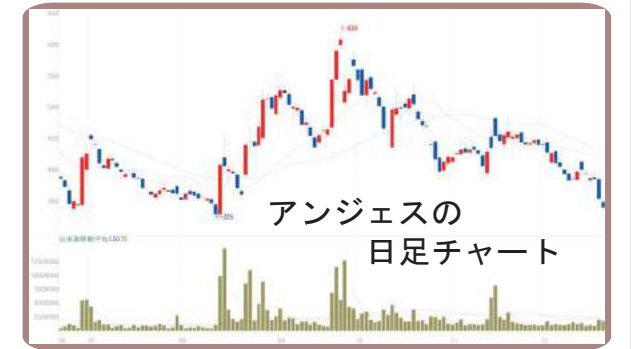
## ソフトバンク混乱峠越す

日経平均は2万円割れから一段安の危機と映る場面ですが、筆者はそれはないとみています。今回の安値更新は2、3月の下落場面とほぼ同じ下落を辿っています。2月14日に2万9500円の安値を付けた後2万2325円まで戻し、その後3月26日に2万347円の安値を付けて、それから大幅に反発する展開になっています。今回の下落は10月26日に2万971円の安値を付けた後2万2698円まで戻し、再び反落し20日に2万282円の安値を付けました。このように3月の安値に当たるのがこの日付けた安値と思われま

す。この日は投資家全員が弱気一色に染まりカラ売りも大量に入り込んでしまいました。まさに陰の極にふさわしい一日だったといえます。現在考えられる懸念材料すべてを織り込み必要以上に下げたとみて引き続きゼネコンを狙うべきでナンピンをかけるチャンスとみるべきでしょう。東海カーボン(5301)も拾うチャンスです。アンジェス(4563)もソフトバンクの損失を埋めるための売りとか担保切れの売りで、一気に8月21日の安値まで売られました。これ以上下値の余地はないと考えられますので、完全な売られ過ぎといえるでしょう。ここでのアンジェスの買いは千歳一隅のチャンスになるとみています。

円になりました。売出し金額の40%を占める金額でした。この資金が売りに回り、資金を吸い上げる結果になり、全体を押し下げる結果につながったといえます。代金はほぼ1兆高となり、売買株を超える出来高の2日間で4億株を超えてきました。この2日間、高と低を繰り返す展開

い一日だったといえます。現在考えられる懸念材料すべてを織り込み必要以上に下げたとみて引き続きゼネコンを狙うべきでナンピンをかけるチャンスとみるべきでしょう。東海カーボン(5301)も拾うチャンスです。アンジェス(4563)もソフトバンクの損失を埋めるための売りとか担保切れの売りで、一気に8月21日の安値まで売られました。これ以上下値の余地はないと考えられますので、完全な売られ過ぎといえるでしょう。ここでのアンジェスの買いは千歳一隅のチャンスになるとみています。



高野恭壽公式ホームページ  
高野恭壽の株式市場情報  
これでどや!!  
<https://marketpress.jp/kabu-takano/>  
毎日情報を配信中!



# 星野三太郎の株街往来

～PayPayの行動力～

12月

5万円を上限に20%、総額100億円のキャッシュバックを行うキャンペーンを大々的に行ったが、わずか10日でその原資が底をついた。サービス開始当初はセキュリティへの不安やキャンペーンを悪用した転売ヤーの行動が問題視されていたが、家電量販店での高額品を買い求める動きを見ると、一部で無謀とも指摘されていた総額100億円の宣伝費は、PayPayの認知度を広める上でそれなりに効果があったのでは思っている。

それに比べると、未だに揉めているのが来年の消費増税時に政府が検討しているキャッシュレス決済時のポイント還元策。クレジットカードを持つ国民と現金支払いだけの国民との不公平感などが問題視されているが、何年もかけて議論されている割には、具体的な方針が見えないのは情けないこと。国家と企業とは負う責任が違うが、PayPayのような行動力を見習う面があると感じた。



## 企業レター

### グランプリと特別賞受賞

大和ハウス工業

2018年度PRアワードグランプリ



表彰式

大和ハウス工業(1925)は、電通や電通パブリックリレーションズとともに展開する、共働き世帯のために家事

の時間的・心理的負担を軽減する「家事シェアハウス」のプロジェクト。同社の提案する「家事シェアハウス」のPR活動が、「課題解決のための戦略性」や「獨創性」に富んでいるものとして評価され、グランプリと特別賞を受賞した。

動が評価され、公益財団法人日本パブリックリレーション協会が主催する「2018年度PRアワードグランプリ」(後援:経済産業省・日本広報学会・公益社団法人日本広報協会)において、グランプリ(最高賞)と特別賞を受賞した。

### クボタ

## 農機最大市場を開拓

インド・EL社と合弁会社

クボタ(6326)はインドのトラクターメーカーであるEscorts Limited(EL社)と、合弁でトラクタ製造会社を設立することで合意した。

インドのトラクタ市場は台数ベースで世界最大規模であり、今後も市場の拡大が見込まれている。現在インド市場はローカルメーカーが主体となっており、ローカル各社は外資メーカーとの提携関係を強化している。同社は

2008年にクボタインド農業機械を設立してインド市場に参入し、2015年に牽引などの多用途に適合したマルチパーパストラクタを発売して以降、順調に推移している。今回インドでの製造ノウハウを持ち、調達力の優れたEL社との協業により、マルチパーパストラクタの現地生産を通して、トラクタ事業の成長を加速させていく。新会社Escorts Kubota Indiaは資本金30億ルピー(51億円)で、クボタが60%、EL社は40%を出資、ハリヤナ州ファリダバード市で2019年3月末に設立の予定で、年間5万台の生産を計画している。

日経225先物日足チャート



敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

あるか、掉尾の一振

突っ込み買いの吹き値売り

日経平均の下を強めていた。独り勝ちをしていた米国だが、ここに来て発表される経済指標で停滞懸念がでてきて長期金利が下落し株価が崩れ始めた。米国の長期金利の下落により円高が進み、日本株が下落するとTOPIXが高値より20%下落したように、7年間は続いたアベノミクス相場は終焉を迎えたようである。

この時期の売りはクリスマス休暇を控えてポジションを軽くするために損失覚悟の売りや税金対策の売りと定期的な要因の売りが多いため、それが無くなる今週は「掉尾の一振」が入る可能性はある。ただ、チャート的には崩れており、本格的な上昇は当面見込めないと考えた個人投資家の追証に

よる投げ売りも見込まれるため、当面は「突っ込み買いの吹き値売り」に徹したい。

チャート的には下値メドは節目である2万円、その下はボリンジャーバンドの▼3σ(1万9800円処)、16年安値(1万4864円)から18年の高値(2万4448円)の半値押し(1万9656円)が上げられよう。

一方、上値はボリンジャーバンドの△1σ(2万7000円処)、19日の窓埋めの2万0880円、一目均衡表の転換線(21000円処)が上げられよう。(ハチロク)

編集後記

厳しい年の瀬になった。世界景気減速懸念や米株安、米長期金利低下による円高にさいなまれ、日経平均は連日で年初来安値を更新。例年この時期は年内の換金売りが終わり、掉尾の一振と年始高へ期待が高まる時期だが、逆に下値への警戒が強まっている。今年の年末相場はリバウンドがあっても戻り売りで終わる投資家が多いだろう。

この一年を振り返ってみると様相が急変し、ロスカットに迫られるケースが多かった。仕掛けの動きも予想しながら、きめ細かく対処する必要があると思う。

今週のスケジュール

- ・ 21日 米7-9月期GDP確定値(22:30)
- ・ 25日 11月企業向けサービス価格指数(8:50)
- ・ 26日 10月30・31日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨
- ・ 27日 米11月新築住宅販売件数(28日0:00)  
米12月CB消費者信頼感指数(28日0:00)
- ・ 28日 11月労働力調査・有効求人倍率(8:30)  
11月鉱工業生産、11月商業販売統計(8:50)  
12月19・20日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」大納会  
米12月シカゴ購買部協会景気指数(23:45)

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。